

わくわく地域連携教育だより

下関市教育委員会
令和8年2月18日
ホームページ
にも掲載



予測困難な社会において、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会全体で学校や子供たちの成長を支えることが大切です。そこで、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動を一体的に推進することで、学校・家庭・地域が連携・協働して、自立的・継続的に子供を取り巻く課題を解決できる地域社会の実現を目指しています。今回は、地域の方や保護者が、学校に来て、朝学習の時間や授業時間、昼休み、放課後等に子供たちの学びを支えてくださっている活動を紹介します。

うつい小中 学習ボランティアが入る「地域道徳」



うつい小中学校では、月に一度、地域の方や保護者に学習ボランティアとして道徳の授業や子供たちの学習支援に入ってもらっています。道徳では、教材や他者の意見を通して多様な価値観や考え方に対する理解を深めています。同世代の友達だけでなく、違う世代の方が道徳の授業に入ってくれることで、子供たちはさらに多様な価値観や考え方出会うことができています。また、地域の方からは、子供たちと一緒に学ぶことで、「若い世代がどういうことを考えているか知れて楽しい」という感想がありました。

向井小「丸付けボランティア」、川中西小「九九マスター教室」 一の宮小「学び直し」、王司小「王司村塾」



学校は、子供たち一人ひとりの理解度に合わせて「個別最適な学び」を行う環境を作りたいと考えています。それを実現するため、友達同士で教え合う「協働的な学び」を促したり、AIドリル等を活用して一人ひとりに合った課題を提供できるように工夫していますが、それだけでは足りません。そこで、多くの学校で地域の方や保護者に助けていただきながら学習を進めています。

向井小学校では、朝学習の時間に地域の方や保護者に「丸付けボランティア」をしていただいている。保護者は、「学校の様子が分かって嬉しい」と感想がありました。川中西小学校では、昼休みに「九九マスター教室」を行っています。全校児童対象なので上学年の学び直しの場にもなっています。一の宮小学校では、6時間目に「学び直し」の時間を作っています。少人数で行うため、つまづいている問題にじっくり取り組むことができます。王司小学校では、放課後に地域の方や保護者、OBが「王司村塾」を開催しています。参加している児童からは「みんなと勉強できて嬉しい」という感想がありました。

